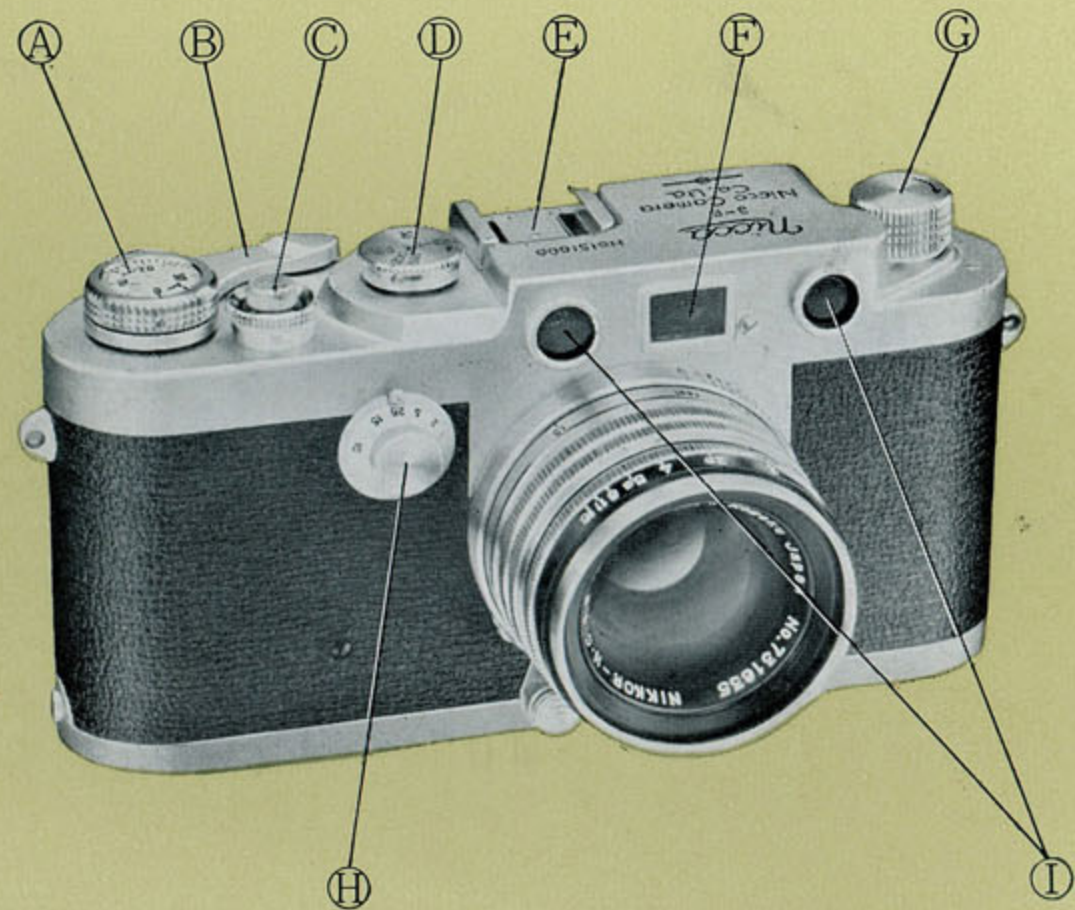


Nicca

Model **3-F**

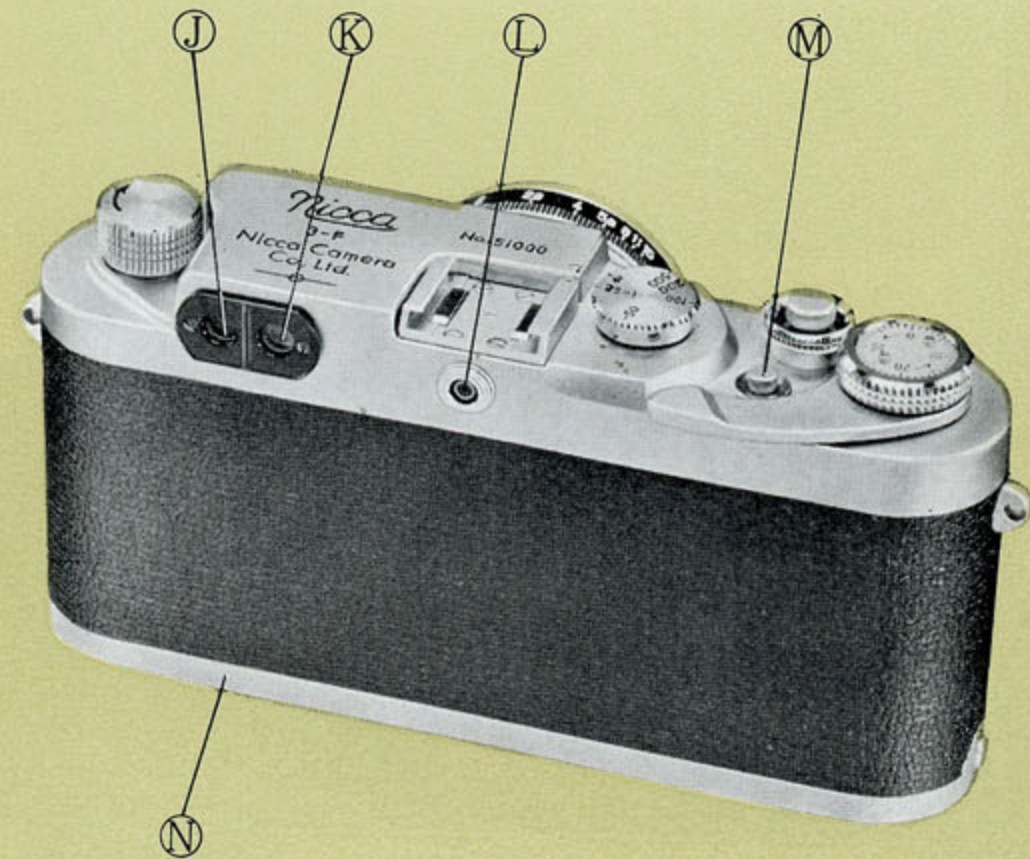
DIRECTION FOR USING



カメラ各部の名称

- Ⓐ 駒 数 計
- Ⓑ 捲上レバー
- Ⓒ レリーズ釦
- Ⓓ 高速シャッターダイヤル
- Ⓔ 附属品取付座
- Ⓕ ファインダー対物レンズ
- Ⓖ フィルム捲戻しつまみ
- Ⓖ 低速シャッターダイヤル
- Ⓘ 距離計対物レンズ

- Ⓙ 距離計接眼レンズ
- Ⓚ ファインダー接眼レンズ
- Ⓛ シンクロナイザーソケット
- Ⓜ 捲 戻 釦
- Ⓝ 底 蓋





(1) 先づレンズキャップを取りはずします。
これは忘れ勝ちですから特に御注意願
います。



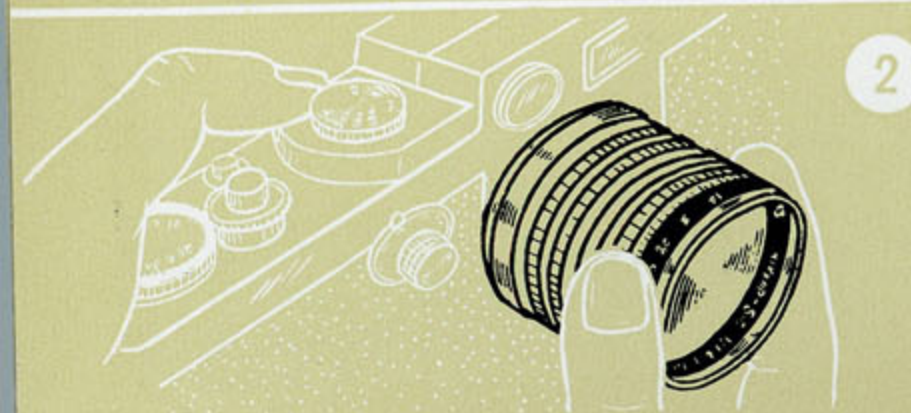
(3) 距離計で焦点を合わせます。
二つの像が合致した所が焦点の合った
所です。



(5) 捲上げレバーを捲いてシャッターを
かけます。



(7) 低速シャッターを使用する時には、この
シャッターダイヤルを使用します。



(2) シャッター速度を考えに入れながら露
出計か露出表によってレンズの絞りを
決めます。



(4) 眼をファインダーに移して構図を決め
ます。




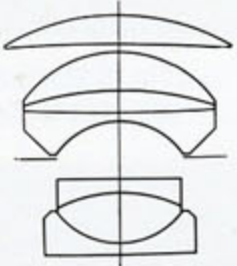


(6) シャッターダイヤルの目盛を決めます。



(8) 静かにシャッター鉤を押して下さい。

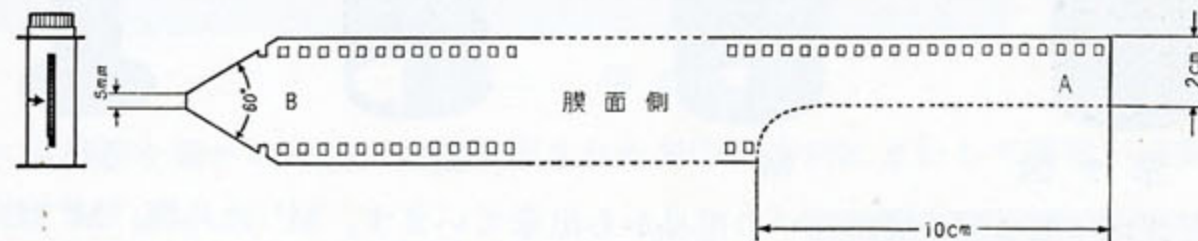
標準レンズ

標準レンズは世界的に名声ある日本光学工業株式会社製ニッコールレンズで焦点距離はどれも50mmですが明るさに次の二種類があります。

<p>f 1.4</p>			<p>世界で最も明るい実用レンズの一つでありまして、その鮮鋭さは諸外国の写真記者を驚倒せしめた事でもわかります。7枚構成のゾナー型レンズで室内、夜間、天然色撮影等に向く高級レンズです。絞りはクリック式、最小絞 f/16 撮影最短距離 1.5 呎</p>
<p>f 2</p>			<p>6枚構成のゾナー型レンズで手頃で使い易い万能レンズです。色収差も極めてよく補正されて居りますので天然色撮影にも素晴らしい効果をあげられます。絞りはクリック式、最小絞 f/16 撮影最短距離 1.5 呎</p>

フィルムの切断と捲付け

生フィルムの取扱いは総て完全な暗室内で行うのは言うまでもありません。長尺のフィルムを切断して使用するには必ず1.6米、即ち5.3呎（これで36枚撮れます）以下に切断し、第1図の様に切ります。パトローネ入りや暗室装填用として発売されている35mmフィルムは20枚又は36枚撮りで右端は点線の様に切断されて居りますが、これでも差支えありません。

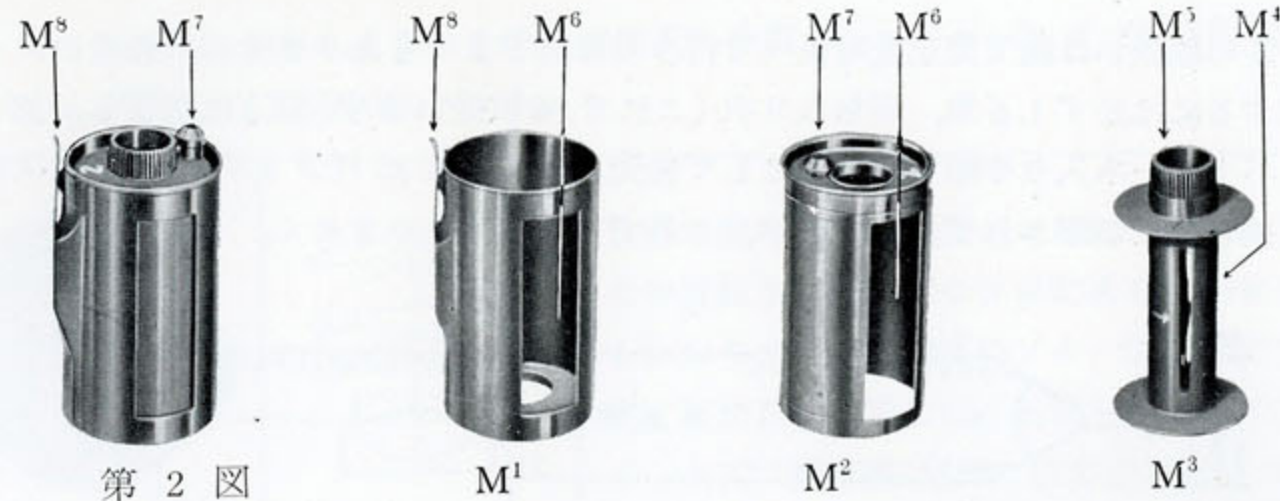


第1図

注意

フィルムを捲付ける時、エマルジョン側（膜面）に手を触れない様に注意して下さい。触れるとシミを作る原因となります。

フィルムマガジン



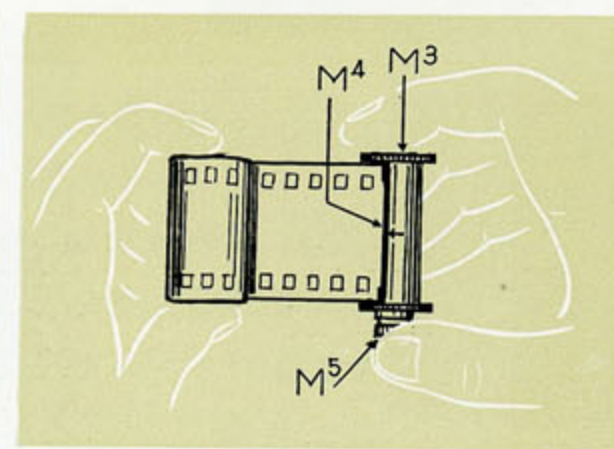
第 2 図

フィルムマガジンは第2図の様に三つの部品から出来ています。M¹ は外筒、M² は内筒、M³ はフィルム捲軸で間隙 M⁴ があります。M⁵ は捲軸頭部、M⁶ は窓、M⁷ は内筒の頭、M⁸ は内筒が不用意に開かないためのバネです。

(I) 閉ざされたマガジンを開いてフィルムの捲軸を取出すには先ず左手でマガジンを持ち、バネ M⁸ を左手の指先で持ち上げながら、右手の指で内筒の頭 M⁷ をつまみ、内筒を右に止まるまで半廻転すると、外筒と内筒の窓が一致します。そこでフィルム捲軸の頭 M⁵ を指でつまんで引上げると内筒及び捲軸共に外筒から取り出せます。(第3図)



第 3 図

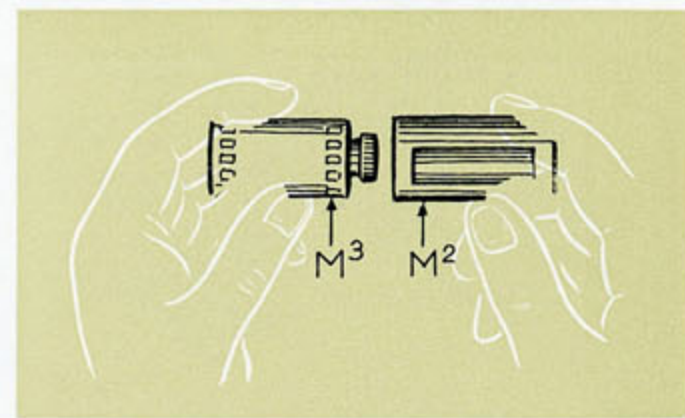


第 4 図

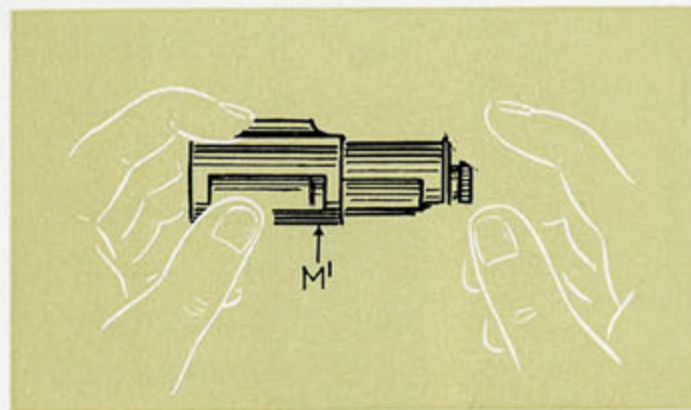
脱け出さない事を確かめた後、軸を彫刻された矢印の方向にまわして膜面が内側になる様に固目に捲付けます。捲軸 M³ のつまみとフィルム切断部 (A) との関係は第1図の様でなくてはなりません。膜面に手や指がふれるとシミを作る原因になります。

(IV) この捲軸を頭の方から内筒に挿入します。この時、フィルムの端が窓から容易に摘み出せる位置に向けて挿入すると便利です。(この場合フィルムの端を数耗だけ外方に折り曲げておくとつまむのに楽です)。(第5図)

- (II) 三つに分解したマガジンの三部分を順序よくならべ、暗黒又は安全灯にします。
- (III) フィルムの尖った方を捲軸の間隙 M⁴ の巾の広い方に差込み引張つて



第 5 図



第 6 図

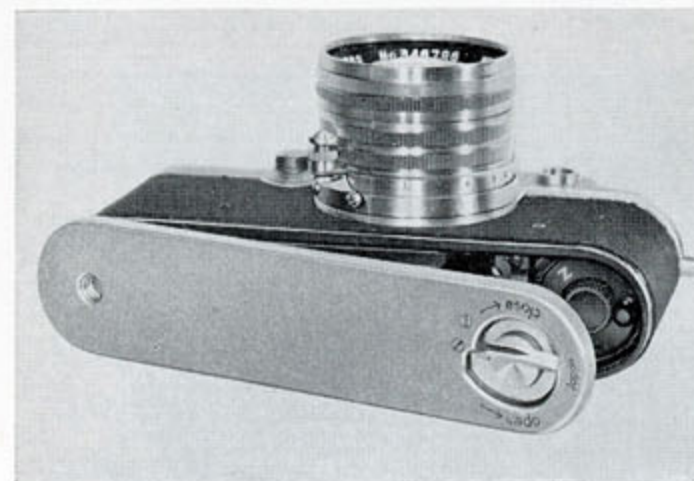
- (V) この内筒を窓を合わせて外筒に入れ（第 6 図）窓からフィルムの端をつまみ 5 糎位引出します。
- (VI) 内筒の頭 M' をつまんで内筒の止まるまで左に半廻転させて窓を閉じます。（第 7 図）
- (VII) フィルムを装填したマガジンはつとめて強光の直射を避け、出来ればマガジンケースの中に入れるか黒い紙、又は銀紙で包んで下さい。

(VIII) マガジンからフィルムを取出すのは暗室を要しますから多数の撮影を行う時はフィルムを入れた相当数のマガジンを御用意願います。

(IX) マガジンのスプールからフィルムを取る時は無理に引かずにスプールの近くでフィルムを鋏で切り、差込んだ反対側から引き抜いて下さい。



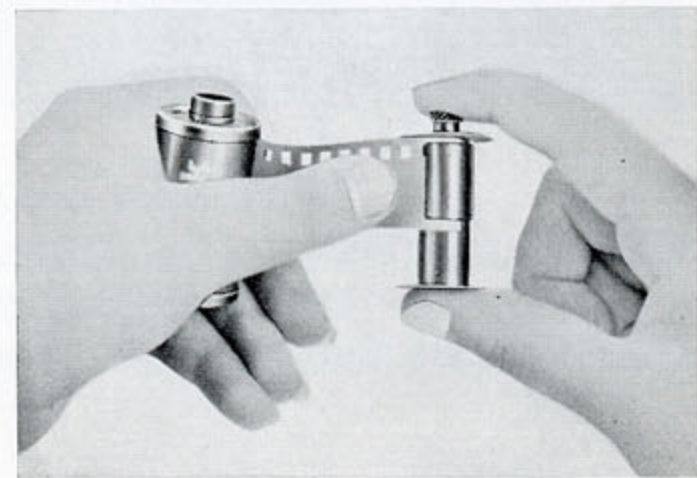
第 7 図



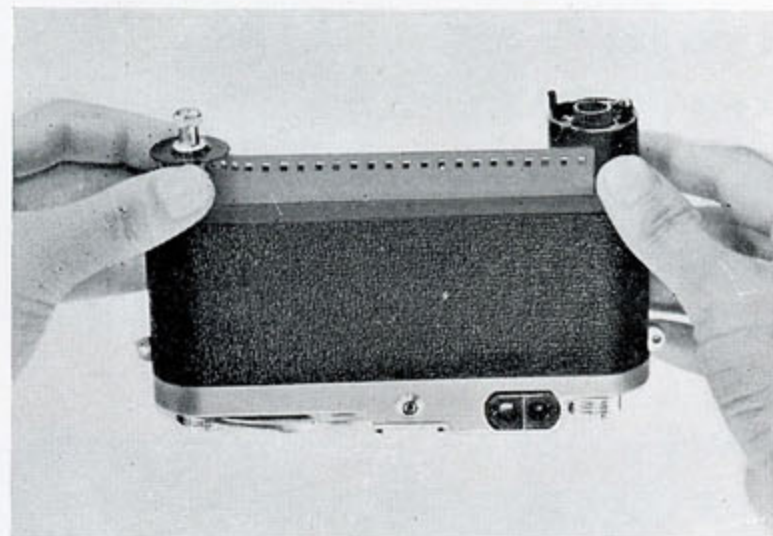
第 8 図

(III) 捲取スプールを抜取つて其の中心軸のバネ板の下に、マガジン（又はパトローネ）に装填されたフィルムの先端部（第 1 図 A）を膜面が外側になる様に固く挿込みます。この時、フィルムの横端がスプールの鑿にピッタリ当る様にして下さい。（第 9 図）

- (I) 先づ捲上レバー（B）を止まる迄捲いた後リリース釦を押しておきます。
- (II) 次にカメラを逆さに持つて底にある開閉つまみを起して Close から Open の位置まで半回転まわして持上げると底蓋が外れます。（第 8 図）



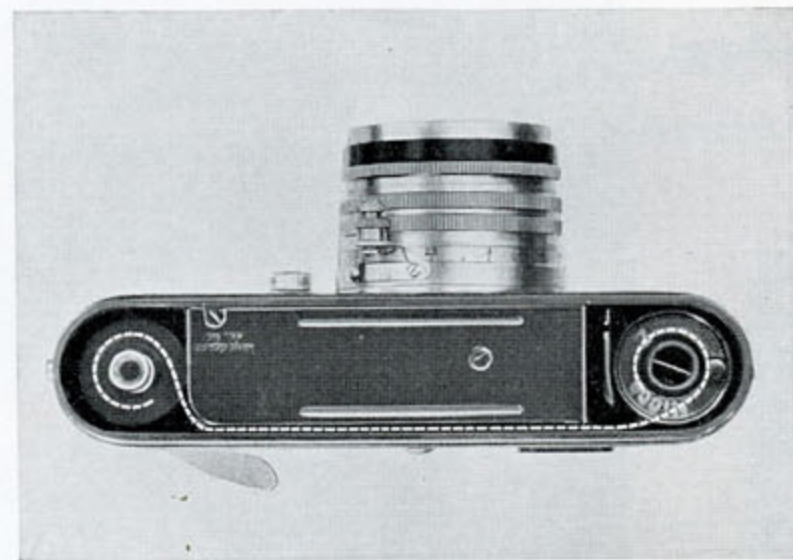
第 9 図



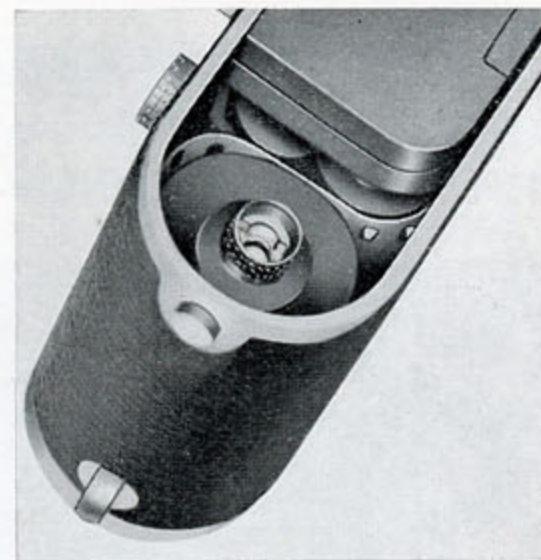
第10図

(V) 第10図の様にレンズを外方に向け右手にマガジンを、左手にスプールを持つて丁度カメラに入るだけフィルムを引出して左右が傾かない様に注意し乍らカメラの底に当る迄しっかりと収めます。この場合、フィルムの膜面がレンズ側にきているかどうか御注意下さい。フィルムの進路は第11図の点線の様になります。

(VI) 捲上レバーを少し捲いて見てスプロケットの歯がフィルムの孔に噛み合っているかどうか確かめて下さい。(第12図)



第11図

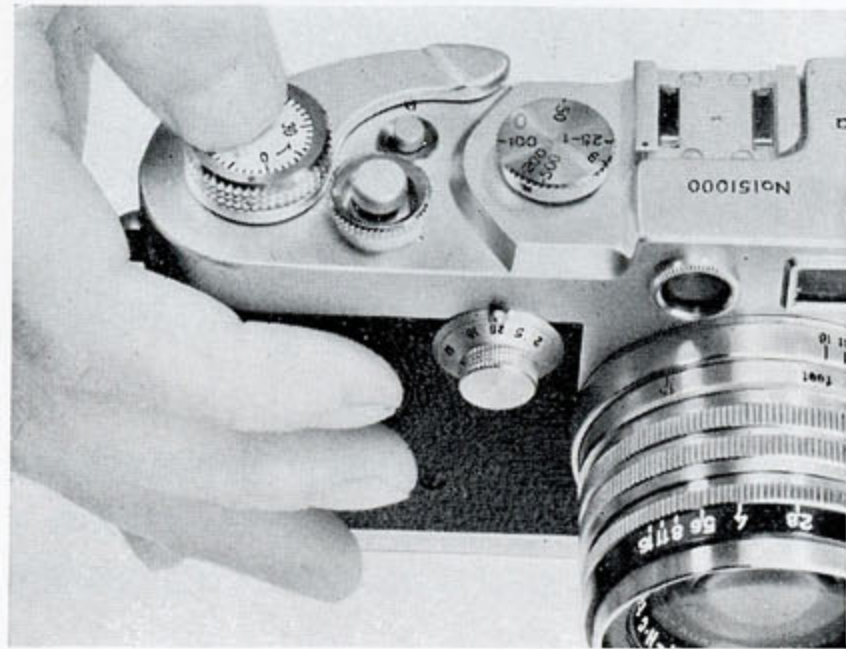


第12図

(VII) 底蓋を元通りにしめ、開閉つまみを Open から Close に廻わします。

(VIII) 捲上レバーを一回捲いてリリース釦を押します。この操作をもう一回繰返しますと最初に装填する際に感光したフィルムが捲取られて未感光の部分が丁度、撮影位置へ来ている事になります。この操作中フィルムが正しく送られていれば捲戻しつまみ(G)は矢印と反対方向に廻転します。

- (I) 第13図の様に駒数計の突起に指か爪をかけて矢印の方向に廻わして0目盛を指標に合せます。これを忘れると撮影した枚数が解からなくなります。

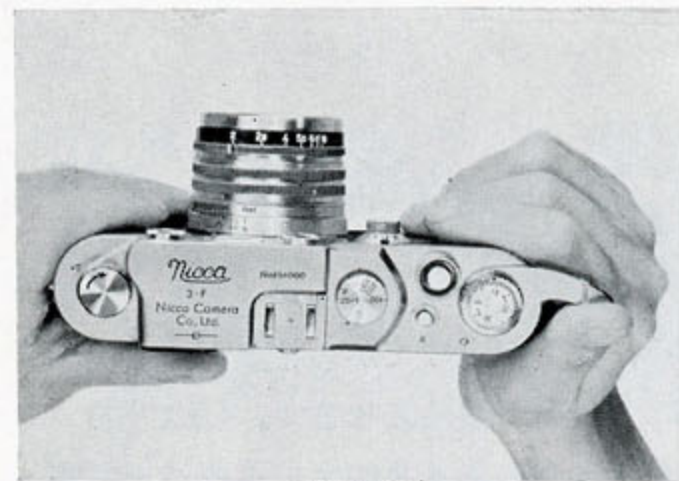


第13図



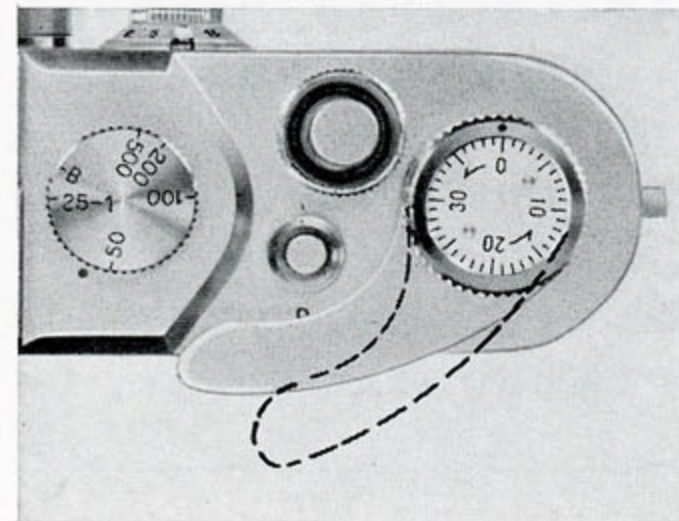
第14図

- (I) 捲上レバーを右方向に止まるまで十分に廻転させます。この操作によってフィルムが一駒送られると同時にシャッター機構を捲上げた状態に致します。この機構のため、二重撮しをする心配はありませんが、特に二重撮し（又は多重撮し）をしたい時は別項の様にすれば出来ます。又この捲上操作は必ずしも1回で捲上げる必要はなく、数回に分けて捲上げることもできます。



第15図

- (II) このカメラの特徴の一つはシャッター作動中は捲上軸に連結されている歯車群とシャッター軸とが、完全に切離されてシャッターの作動に有害な磨擦力や慣性力が最少になっている事ですが、そのためにレバー捲上の終りの瞬間に連結が切り離される事による僅かなショックがあります。つまりこのショックにより完全に連結が切り離された事が確認できます。



第16図

- (III) 撮影中は捲上レバーに指がかゝり易くするため後退した位置（第16図点線の位置）でレバーが止りますが撮影を止めてレバーを軽く押すと写真の様な位置に収納されます。

高速シャッターダイヤル



第17図

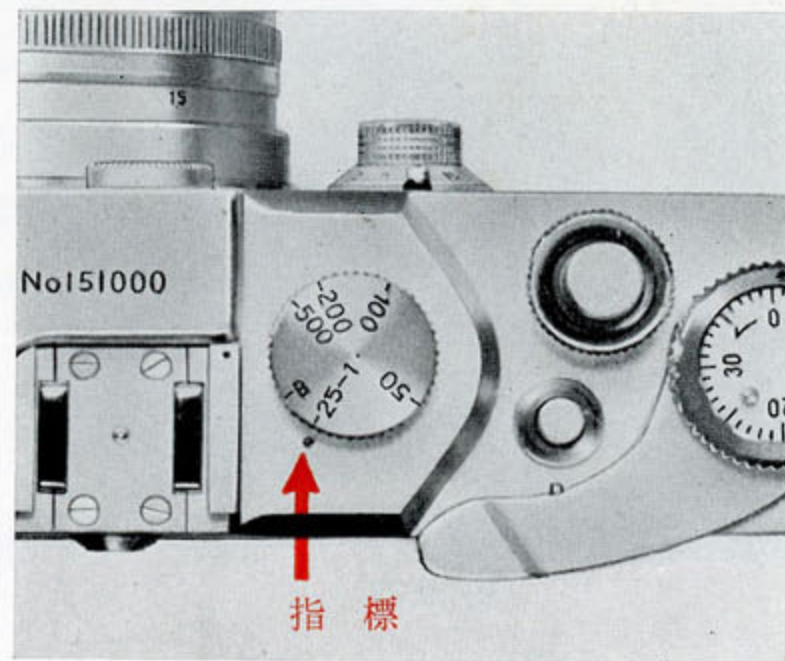
- (Ⅲ) ダイヤルは落込み式になっておりまして数字のある所以外では落込みません。落込みぬ儘でシャッターを切るとシャッターが傷み易いので使用しない様に御注意下さい。即ち、数字と数字の中間の速度は使用出来ません。

- (Ⅰ) 高速シャッター (1/500~1/25秒) を使用する場合には先ず低速シャッターダイヤルを“25”の所に置き、高速シャッターダイヤルを指で摘み、少し持上げてから希望の速度目盛を指標に合わせて落込ませます。(第17図)
- (Ⅱ) このダイヤルにあるBのマークはバルブ露出をする場合に用いられます。目盛をBにおけばシャッターはシャッター釦を押している間だけ開き、釦を離すと閉じます。この時、スローシャッターダイヤルは“25”の所におきます。

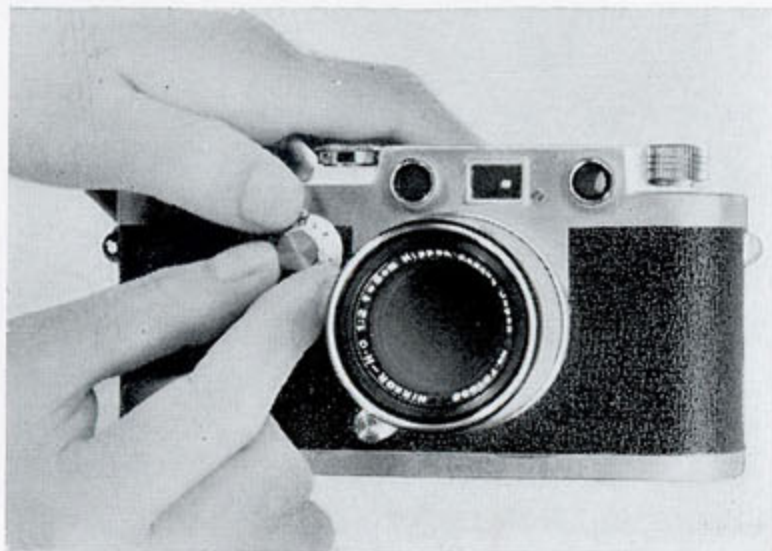
- (Ⅳ) 捲上げない前にシャッター速度を見る時は第18図の指標の所で見ればわかります。
- (Ⅴ) シャッターダイヤルを動かす操作はシャッター捲上げ前に行ってもかまいませんが成可く捲上げてから行う様に御奨め致します。

注意

シャッターを捲上げたまま、長期間放置する事はシャッター Springs を弱める原因となりますので十分気をつけて下さい。



第18図



第19図

一は全開し、釦を離してもその儘になっています。閉じるには低速シャッターダイヤルを静かに1秒の方向に廻わします。

1/15秒から1秒までの露出とタイム撮影をする場合はこのダイヤルを使用致します。

(I) このダイヤルを使用する場合は先づフィルムを捲上げて高速シャッターダイヤルを25-1に合わせた後に、このダイヤルを希望する速度目盛の指標に合わせます。

(II) 1/25秒の所に制限装置があってここで止まります。この位置から動かすにはダイヤル上部のボタンを押せば制限がはずれて動きます。

(III) タイム露出を行う時は(I)に準じてTに合わせ、シャッター釦を押しますとシャッター

フォーカルプレーンシャッターを装備するカメラではレンズキャップは必需品であります。それはシャッターのゴム膜は熱線(赤外線の一部)を多少乍ら透過し、カブリの原因となる事と、長時間の間には膜の横端より多少、光線が入る事があるからです。それ故、撮影以外の時は成可くキャップをかぶせておく事がレンズの保護とカブリ防止の意味から重要であります。又、キャップなしで誤って太陽の方向にカメラを向けて停止すると、数秒でシャッター膜を焼き、孔をあけますから逆光線撮影の時は十分の御注意を願います。



第20図

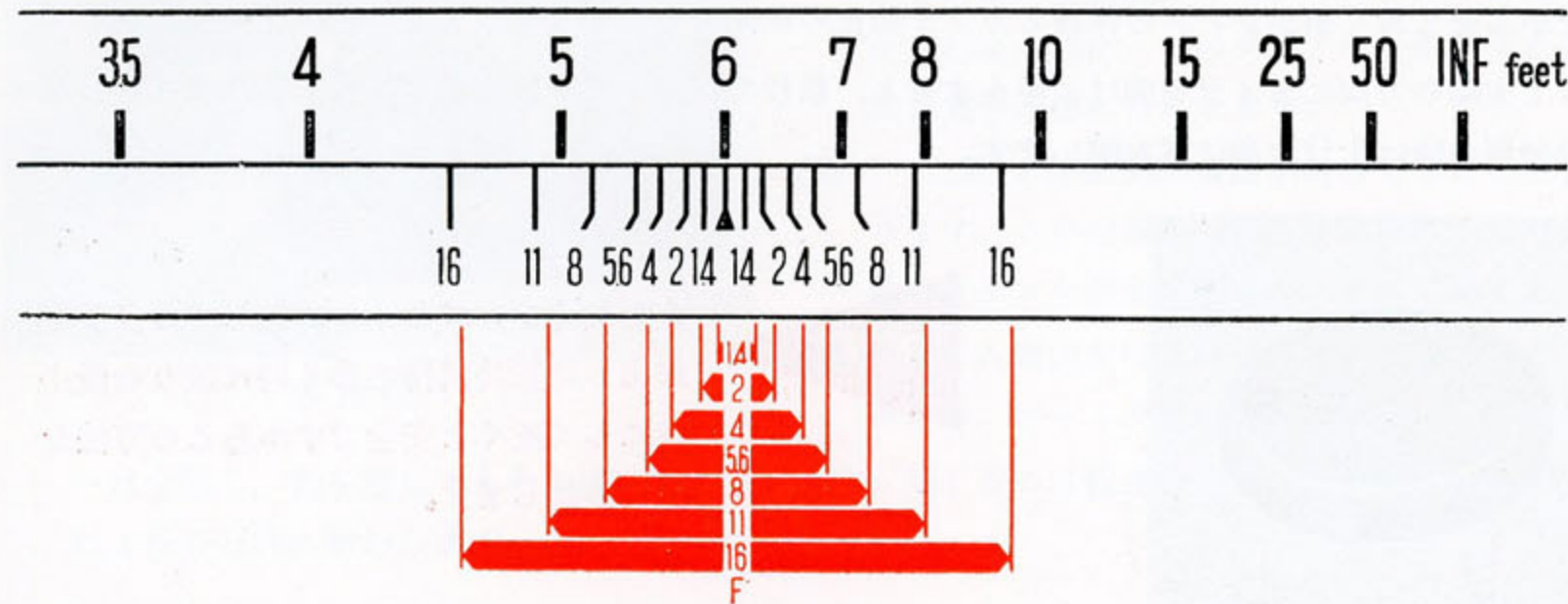
注意

止むなくレンズキャップ無しでカメラを露出して長時間持ち歩く時は絞りを最小絞にして置くと安全ですからこの方法を御奨め致します。

焦点深度の求め方

焦点深度はレンズに彫刻してある焦点深度目盛と距離目盛を読み合せて求められます。焦点合せを行ってから焦点深度目盛の二つの対になった絞記号の示す距離目盛の間が焦点深度になります。

焦点深度——とは或る一点に焦点合せをしたとき、その前後にレンズが鮮明な像を結ぶ奥行のことで前方より後方に深いものです。又絞りが小さい程深くなります。同じ絞りの場合には焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。



第 21 図

焦点深度表 (F = 50 耗)

第 1 表

錯乱円の直径 0.033mm の場合

距離目盛 F	3 呎	6 呎	12 呎	30 呎	50 呎
1.4	2'11½" ~ 3'½"	5'10" ~ 6'2¼"	11'4" ~ 12'9"	25'11" ~ 35'7"	40' ~ 230'
2	2'11¼" ~ 3'¾"	5'9" ~ 6'3¼"	11' ~ 13'2"	24'6" ~ 38'9"	36' ~ 350'
4	2'10¾" ~ 3'1½"	5'6½" ~ 6'6½"	10'3" ~ 14'7"	20'9" ~ 55'	29' ~ ∞
5.6	2'10¼" ~ 3'2"	5'4½" ~ 6'9½"	9'8" ~ 15'11"	18'5" ~ 82'	24' ~ ∞
8	2'9½" ~ 3'3"	5'1¾" ~ 7'2½"	8'11" ~ 18'6"	15'10" ~ 310'	20' ~ ∞
11	2'8½" ~ 3'¾"	4'10½" ~ 7'9¼"	8'1" ~ 23'5"	13'5" ~ ∞	16' ~ ∞
16	2'7¼" ~ 3'5¼"	4'6" ~ 9'1"	7'1" ~ 41'	10'10" ~ ∞	13' ~ ∞



第22図

(I) 焦点の調節は第22図に示す様に右手でカメラの一方を握り、左手でカメラの他の一方を支え乍ら人差指でレンズの調整レバーを廻転させて行います。無限遠(∞)の位置ではこのレバーは固定する様になっておりますから無限遠位置より動かす時はレバーの尖端のボタンを押してから動かして下さい。

(II) 距離計の接眼窓をのぞいて目標を見ると、第23図左の様に二重像が見えます。レンズの焦点調整レバーを動かすと、この二重像が近寄ったり離れたりますから両者が完全に一致する様な位置を探します。(第23図右) この位置が焦点の合った位置であります。合致させる時は必ず視野の中央で合わせていただきます。



第23図



第24図

ニッカカメラの一つの特長は附属品なしで1.5呎までの近接撮影が出来る事であります。レンズ鏡筒を廻わし、遠距離目盛の方から近距離目盛の方にもって行くと3.5呎の近辺で抵抗を感じます。更に少し力を加えて同方向に押すと動き始めて1.5呎の目盛まで廻ります。3.5呎未満の目盛は赤字で記入されておりますがこの部分では距離計は連動致しません。それ故、この距離(3.5呎—1.5呎)で撮影する時はフィルム面(第24図のマーク)から被写体までの距離を測ってその距離をレンズ鏡筒の目盛に置いて下さい。

第2表 3.5呎以下の撮影範囲は次表の通りです。

距離	1.5'	1.75'	2.0'	2.25'	2.5'	2.75'	3'	3.5'
面積	$6\frac{5}{16} \times 9\frac{1}{2}$	$7\frac{11}{16} \times 11\frac{5}{8}$	$9\frac{3}{16} \times 13\frac{13}{16}$	$10\frac{5}{8} \times 15\frac{7}{8}$	$12'' \times 18''$	$13\frac{5}{16} \times 20''$	$14\frac{11}{16} \times 22''$	$17\frac{13}{16} \times 26\frac{11}{16}$

すべてのニッコールレンズには距離指標の他に“R”と記入した第二の指標がついています。この指標は赤外線撮影、即ち赤外線フィルムと赤外線フィルターを併用した際に使用するもので、先ず普通の撮影の要領により被写体までの距離を測定して実際の距離を知り、その距離を“R”の指標に合わせれば（即ち通常より鏡胴を少し延ばす）赤外線撮影においても正しい焦点が得られます。これは赤外線と可視光線ではガラスの屈折率が違うのでこの両者の焦点面に幾分のズレがあるため、これを矯正する手段です。



第25図

レンズに対する注意

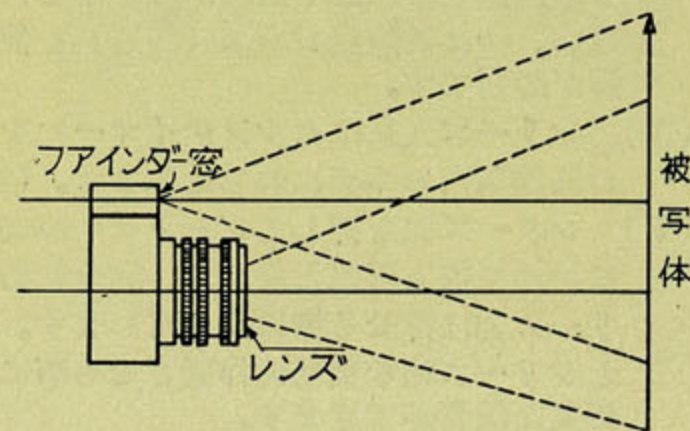
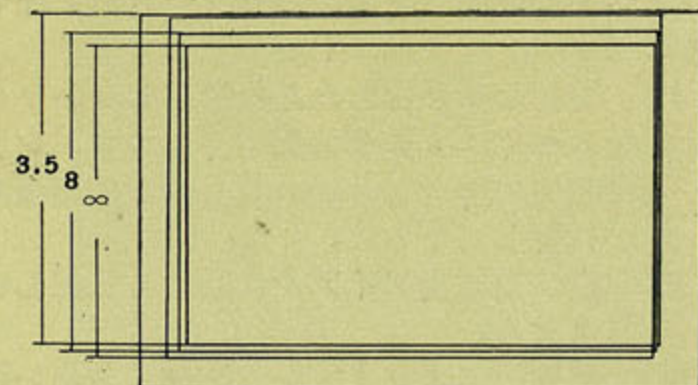
レンズは分解なさらぬこと。もし何か障害が生じたならば販売店を通じ総代理店又は当社へ御相談下さい。

注意

カメラとレンズ番号を記録しておく事をお奨め致します。これはカメラやレンズを紛失された時に役立つ事があるからです。又、保証票も紛失されぬ様に保存して下さい。

ファインダーの位置とレンズ位置が違うので、実際にカメラレンズで撮影される視野とファインダーで見られる視野とは差異を生じます。この差の事を“パララックス”と言います。無限遠の時は同一視野（即ちパララックス無し）ですが12呎以下位の近距離になると無視出来なくなります。左右方向は大した事ありませんが上下は相当量になるのでパララックス匡正器付のユニバーサルファインダーを使用するか又レンズとファインダーの取付寸法（上下29耗，左右9耗）だけズレた所をねらって下さい。即ちファインダーで多少、被写体の上方をねらって撮影すると正しく画面に入ります。

パララックス (視差)



第26図

すべての準備が出来たらレリーズ鉤を押せば撮影は完了する訳ですが、次の点に十分注意して下さい。

- (I) 有害な振動をあたえぬ様にしっかりとカメラを支えて、なるべくユックリと鉤を押します。レリーズ鉤を押すのは指先で押すより指の腹全体を保護環の上に乗せ、しずかに押して下さい。
- (II) 指が高速度ダイヤルに触れると正しい露出速度が得られません。
- (III) 熟練度によりますが1/50秒より長い露出を手持ちで行う事は無理で、必ず三脚か確かりした台の上で行って下さい。特に長焦点レンズ(後述)を使用した時は必ず三脚が必要です。
- (IV) レリーズ(又はセルフタイマー)を使用する時は押鉤の保護環内のネジにねぢ込みます。(第28図)
- (V) レリーズ鉤を押してシャッターが切れた後捲上レバーは始めて捲上可能となり又、完全に捲上げた後始めてレリーズ鉤は押せる様になっています。従って捲上レバーとレリーズ鉤を交互に作動させる事により極めて迅速且確実な撮影ができます。

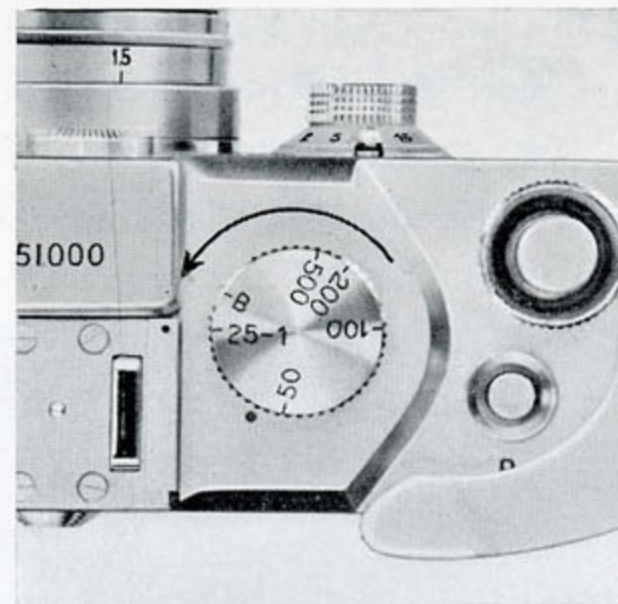


第27図



第28図

- (I) 通常の撮影の要領により一枚撮し終わりましたら第29図の様に高速シャッターダイヤルを時計と反対方向に廻します。
- (II) 戻し終りの近くになるとカメラの中でカチリという小さい音をします。これで二重撮影の準備ができた訳です。この場合レリーズ鉤や捲上レバーに触れる必要は全くありません。
- (III) この状態で又被写体をねらってシャッターを切れば二重撮しが出来ます。この時、シャッター速度を変えても差支えありません。この操作を繰返して行えば多重撮しも可能な訳です。



第29図

注意

上記(II)の操作の時ダイヤルの左廻しを途中で止められるとシャッター及び捲上機構の安全装置がかかりレリーズ鉤及び捲上レバーは作動しませんからこの場合はシャッターダイヤルを右に止まる迄戻して再び(I)より操作を繰返して下さい。

(I) フィルムの全部の撮影が終ると巻上レバーの廻転に抵抗を感じて動かなくなります。(この場合、無理に巻上げるとフィルムがマガジンから全部脱けて暗室内でないと取出せなくなります) そうしたら巻上レバーより手をはなします。

(II) 巻戻し釦 (M) を押し、巻戻しつまみを引上げて矢印の方向に巻くと撮影済のフィルムがマガジン (或はパトローネ) の中に巻戻されます。最後に抵抗を感じますがかまわずに巻くと巻



第30図

取スプールのパネからフィルムの端がはずれて全部マガジンの中に入ります。

(III) 再びカメラの底蓋をはずしてマガジンを取出します。

(VI) 巻戻し釦を押すだけで巻戻しの状態に保持されますから、巻戻し中釦を押している必要はありません。巻上レバーを動かすと自動的に巻戻しの状態は解除されます。

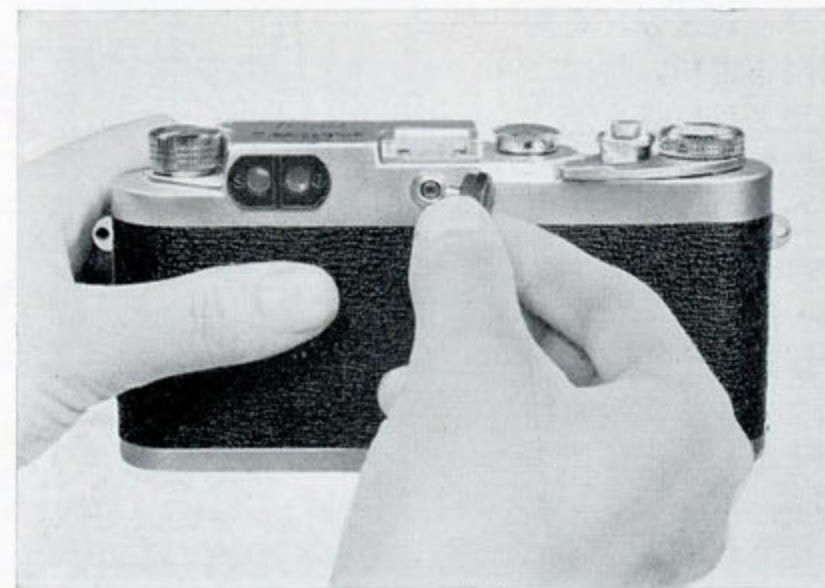
ニッカカメラには特許自動切換式フラッシュ同調装置が内蔵されておりまして、これを使用すればシャッターを切ると同時にフラッシュバルブ又はストロボフラッシュを発光させ、完全な同調撮影が可能であります。

(I) 背部のソケットにコードを差込み、フラッシュガンと連絡します。

(II) 高速度シャッターダイヤルを $1/25$ 秒にしますと自動的にX接点に切替わられます。それ故、 $1/25$ 秒より遅いシャッター速度は全部オープンフラッシュ撮影となります。

(III) $1/50$ 秒より速いシャッターを使用される場合は必ずフォーカルプレーン用バルブ (F. P級) を用いて下さい。

(IV) オープンフラッシュ撮影の場合はバルブはどの級を用いても差支えありません。

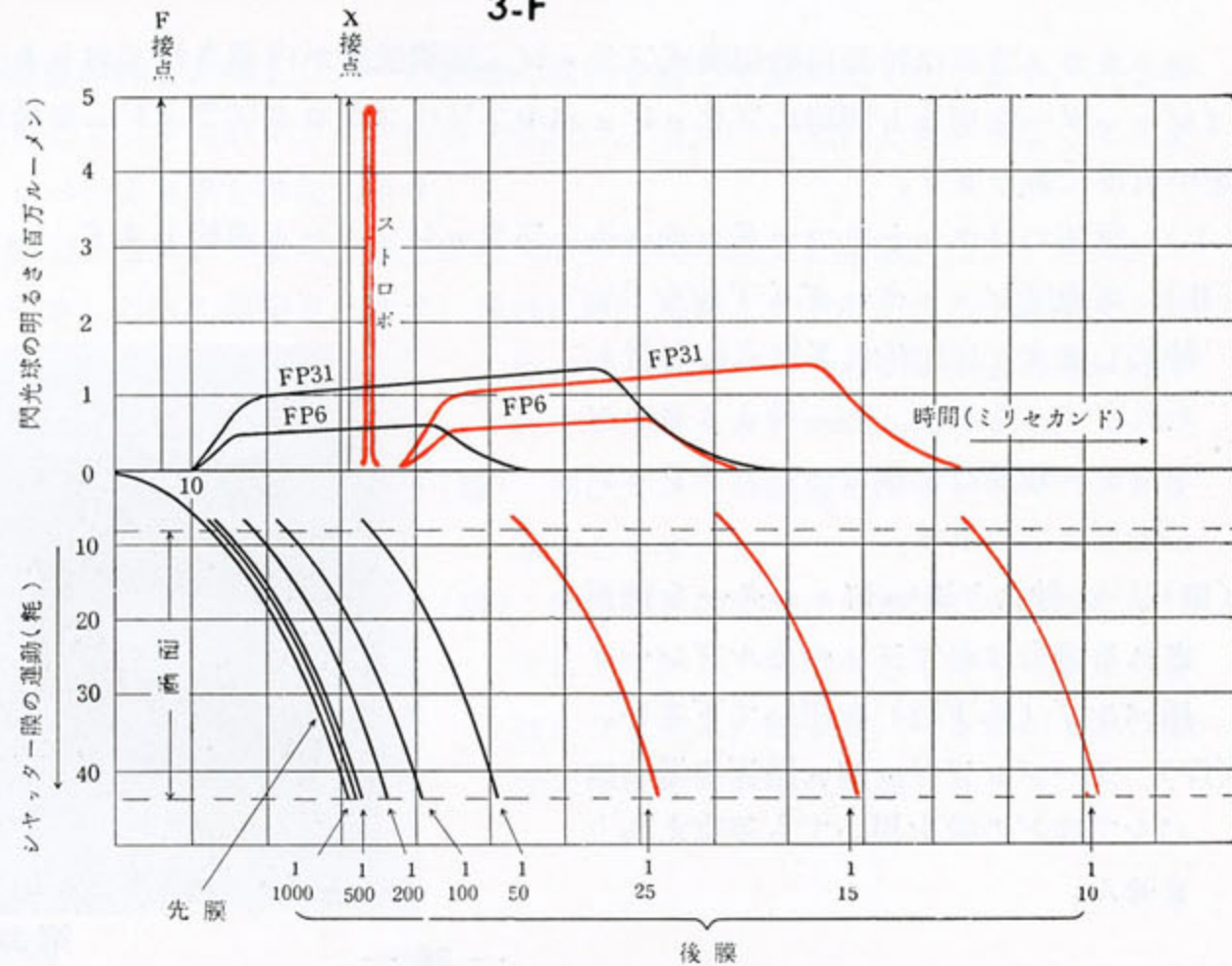


第31図

注意

完全な同調撮影をするためにフラッシュガンは強力な B・C フラッシュガンを御使用下さい。特にこのカメラに最も適する様に設計されたニッカフラッシュガンを御奨め申します。B・C フラッシュガン以外のもの（例えば 3 ボルト電池使用のもの）を御使用の場合、高速シャッターでは完全同調致しません。

ニッカ 型 同調曲線 3-F



レンズ交換

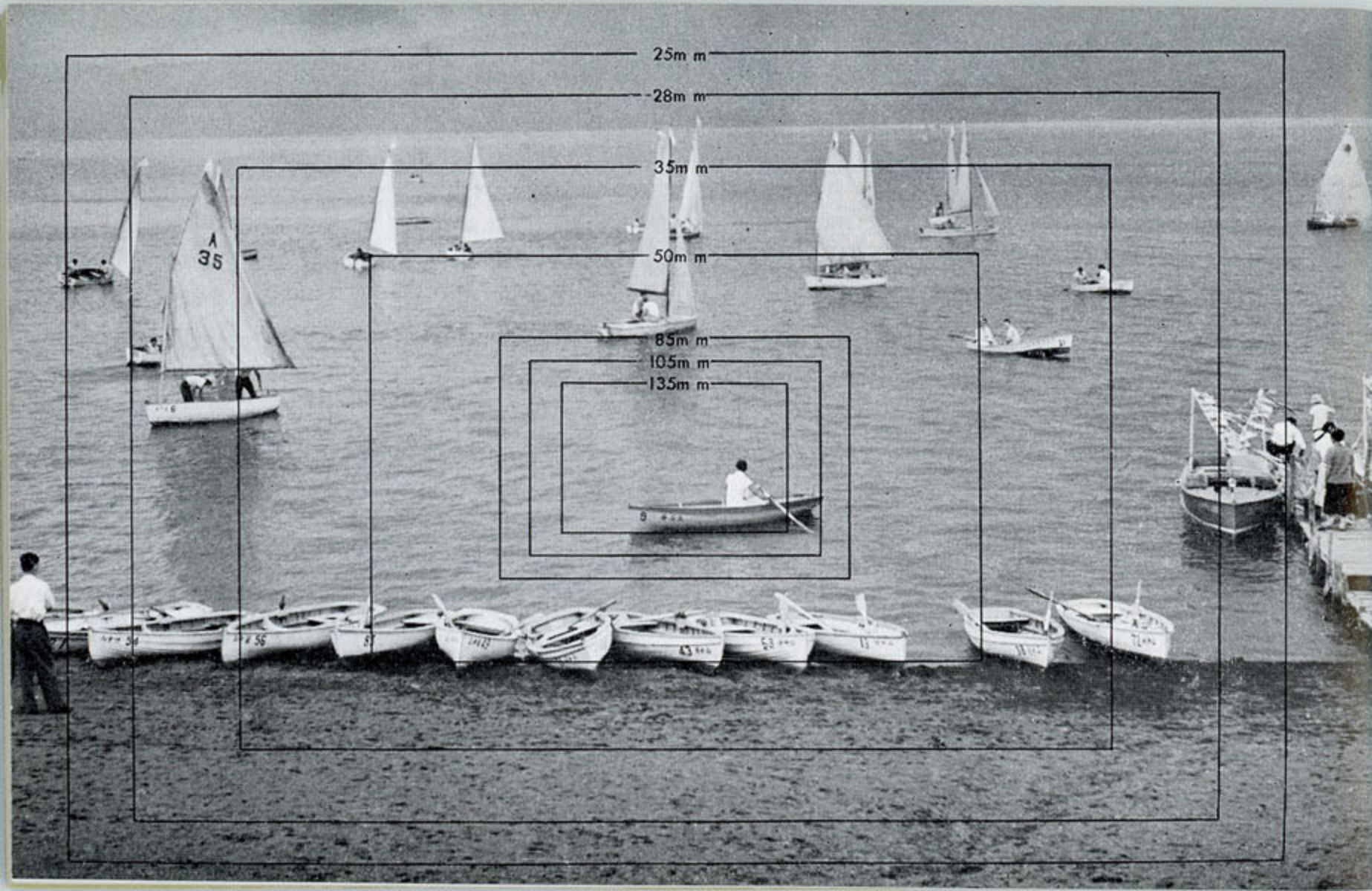
ニッカカメラには多数の附属品がありますが、中でもレンズが交換出来る事が一つの特長であります。レンズはいずれも標準化されており距離計に連動致します。ライカ用ネジ式レンズのすべてが使用出来、又ニッカ交換レンズもライカに使用出来ます。交換する時は左手でカメラをシッカリ持ち、右手親指でレンズの焦点調節レバーの金具全体を左方向に押しゆるめ、2回転半させますとはずれます。次に交換すべきレンズをねじ込みシッカリ締めます。この操作中、カメラは強い光にあててはなりません。目下、発売している交換レンズは後述の通りでいずれもレザーケース中に納められて箱入りであります。

ニッコール標準レンズ用のレンズケースと後蓋

これらは別にお求めになることができます。レンズをはずした時にレンズを保護する役目のもので、安全のためにも是非御使用をお奨め致します。



広角レンズ



第35図



焦点距離25耗, 28耗, 35耗の三種あります。いずれも特殊な撮影に向きますので用途によって御選定下さい。

ニッコール 25耗 f/4 レンズ

ツアイス社の航空写真測量用広角レンズとして有名な“トポゴン”より発展させた超広角で対称形配置のため歪曲収差が少く、縁部も十分な明るさをもっています。

画角.....80度30分 重量.....115瓦



第36図



ニッコール 28耗 f/3.5 レンズ

前玉より後玉が大きい特殊設計で周辺光量の増加に特に留意してあります。色収差, 鮮鋭度も優秀であります。

画角.....74度 重量.....145瓦

一般用広角レンズとして35耗 f/2.5, f/3.5 の二種を用意して居ります。標準レンズとして50耗の代りに使用されて居る方も多い位の万能レンズです。

画角.....62度

ニッコール 35 耗 f/2.5 レンズ

6枚構成で色収差その他も十分に補正されて居り、カラーフィルム用としても最適であります。

重量.....160瓦

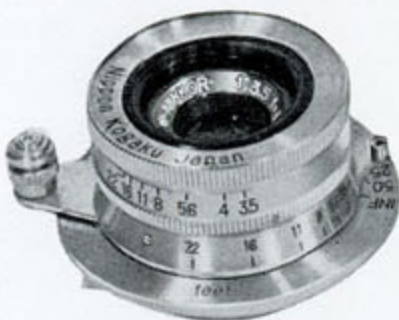
ニッコール 35 耗 f/3.5 レンズ

定評あるテッサー型の広角レンズで安価、且つ軽量で用途の最も広い代表的レンズです。

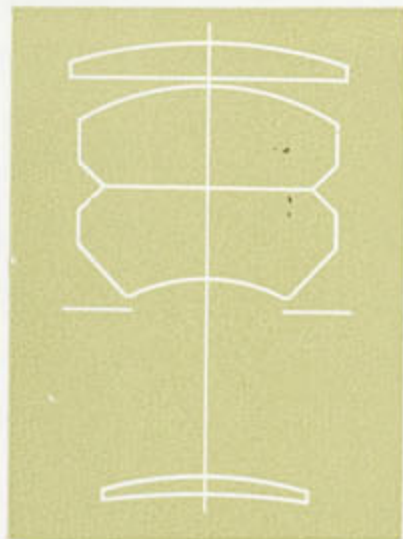
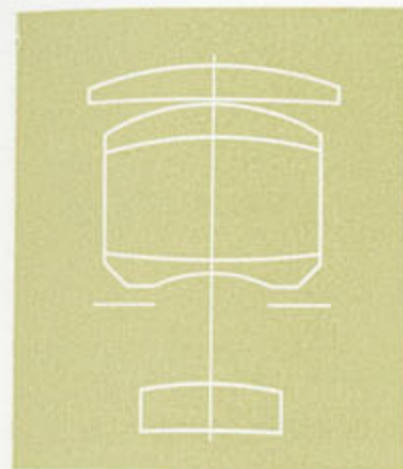
重量.....150瓦



第37図



第38図



第39図



第40図

ニッコール 105 耗 f/2.5 レンズ

最も新しくニッコール交換レンズの系列に加わった新鋭鏡玉で、85耗と135耗の中間にあって便利なレンズです。金属部は特殊軽合金製黒塗仕上で大ききの割に軽量です。レンズフードは No. VII のフィルターが合います。

画角.....23度20分

重量.....570瓦

レンズフード付

ニッコール 135 耗 f/3.5 レンズ

実用向の長焦点レンズとして最長の焦点距離をもっています。収差は完璧に匡正され、山岳撮影や遠景の描写に素晴らしい偉力を発揮します。フードは No. VII 用です。

画角.....18度

重量.....565瓦

レンズフード付

望遠レンズ中、85耗望遠レンズは大口徑を有するので光線不十分な場所や人像写真、舞台撮影等に最も便利であります。

画角.....28度30分

ニッコール 85 耗 f/1.5 レンズ

重量を軽減するために主要金属部が特殊軽合金で作られ、黒塗仕上となっております。レンズフード付で直径56耗、厚さ3耗の専用フィルターが使用出来る様になっています。

重量.....610瓦 レンズフード付

ニッコール 85 耗 f/2 レンズ

色収差、球面収差等が極めて良く補正されている一般用レンズで、望遠レンズ中、最も需要の多いものです。レンズフードにはコダックシリーズ No. VII のフィルターが合います。

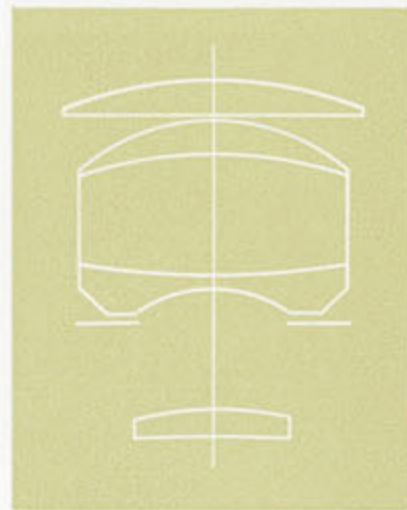
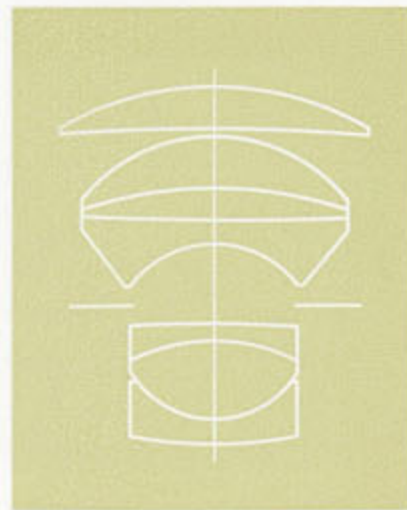
重量.....445瓦 レンズフード付



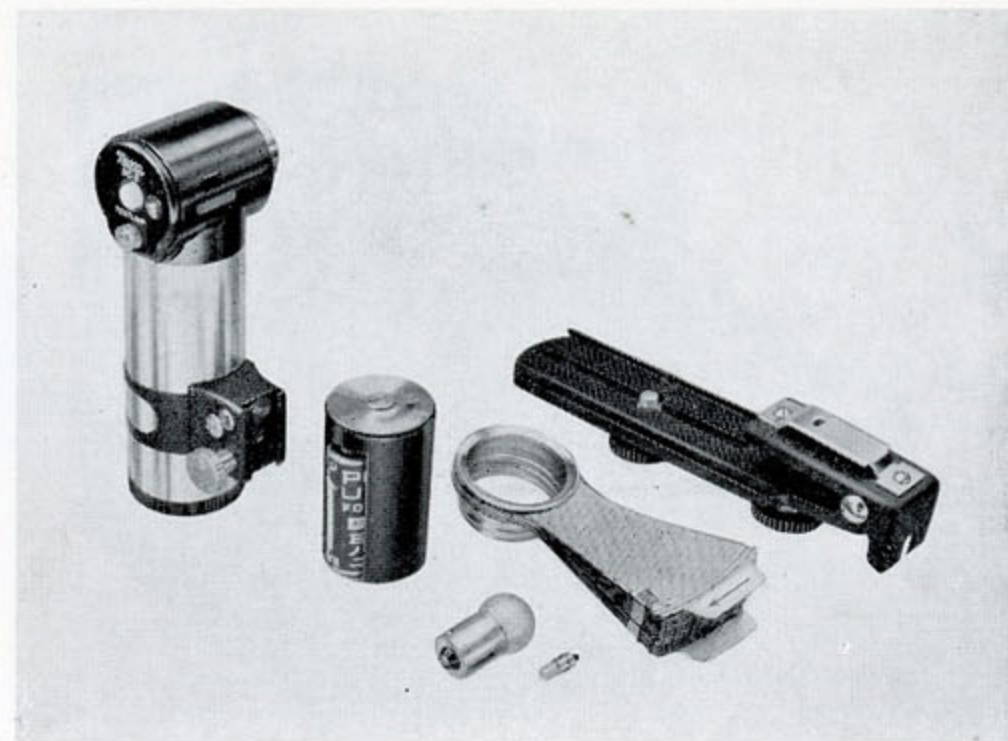
第41図



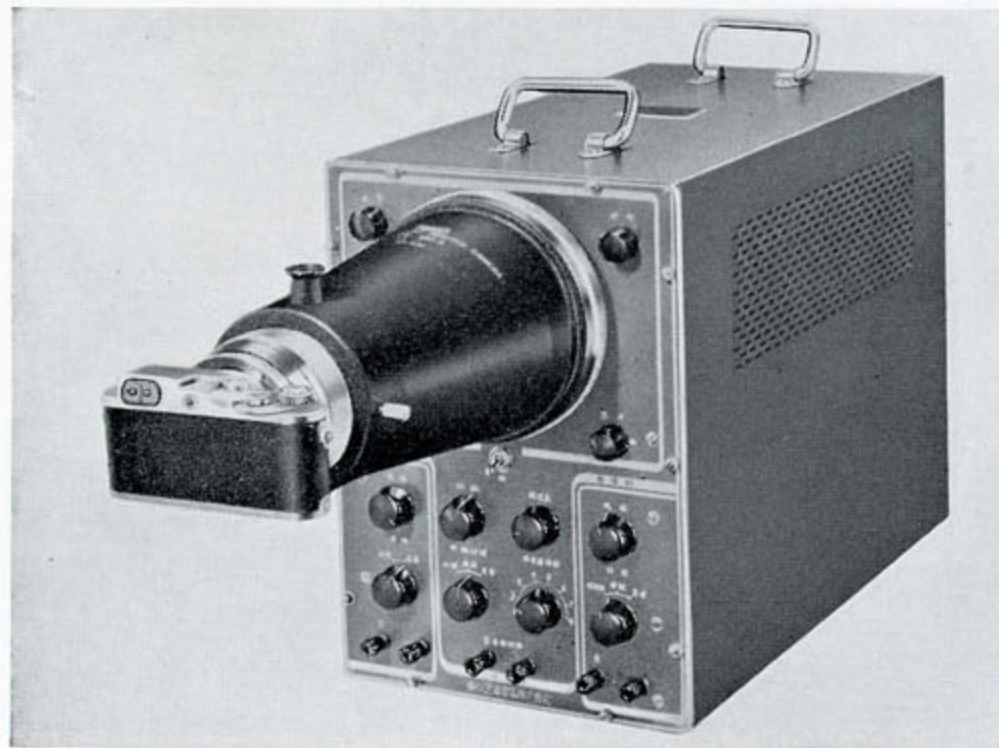
第42図



自動充電式ニッカフラッシュユニットはニッカ用として特に設計された B・C フラッシュガンで、閃光電球をソケットに挿入すれば自動的にコンデンサーに充電され、頭部にあるパイロットランプ及びテストランプにより閃光電球の良否、充電の有無、シンクロの回路の良否等の点検も容易にでき、又多灯発光及び単独発光も出来る優秀品です。



第43図



第44図

瞬時に消え去るブラウン管オッシログラフ上のデータを記録する為に此のオッシログラフ・ユニットを使用致しますと極めて簡単、且つ迅速に記録撮影する事が出来、後日の御検討に大変便利であります。

ニッカ・オッシログラフ・ユニットはニッカカメラ用として特に設計、製作致しましたので、ニッコールの無比の解像力と相俟って完全な記録が得られます。尚、ねじ込式ライカマウント型の他の35耗判カメラにも使用出来ます。

工場、研究所、学校等における研究の必需品として御利用を御奨め致します。(別冊の使用書あり)

NT-120A 型

使用ブラウン管の直径.....120耗
撮影縮少率.....3.6



第45図

速写ケースは茶褐色のボックス皮を使用し、附属品として肩掛用補助ストラップがついております。

此のケースは全部接着剤により接着され、糸を使用しておりません。しかも外力に対しては(特にレンズ部分の突出部)十分な強度を持たせてあります。

最近、カメラをケースより出して裸で御使用する方がありますが、此れは往々にしてカメラを傷つける事がありますので、なるべくケースに入れて御使い下さる事をお奨め致します。

フィルター

フィルターの真の性能は硝子材料の内部歪、脈理、吸収率、研磨面の精度や平行度、金具への取付方法等によって非常に相違がありますので外観だけでは優秀品と不良品の判定が仲々困難であります。

優秀なニッコールレンズの性能を十分に発揮させるため、ニッカフィルターの使用を御奨め致します。

フィルター使用の際は清潔な木綿に少量の純アルコールをつけて軽く拭って、油や指紋を除去してから取付けて下さい。



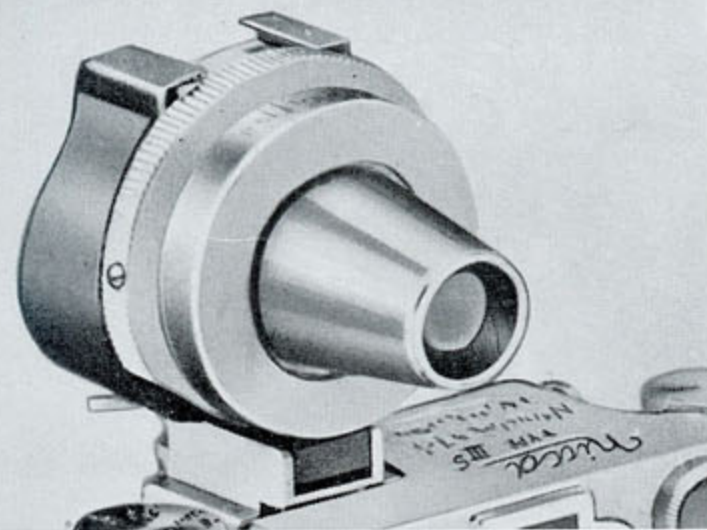
第46図



第47図

レンズフード

撮影の時に被写体以外の部から来る光線が相当あり、特にカメラの前面に強い光源がある場合にはレンズに直射光が当り勝ちです。不必要な光線が大量にレンズに入射するとレンズ鏡筒内の反射を生じたり、フレアーの原因となりますので、レンズフードが絶対必要となります。外観は角型黒塗仕上でレンズ鏡筒にかぶせ式。



第48図

標準レンズ（50耗）以外のレンズを使用する時は撮影範囲が変わるのでカメラに装備されているファインダーでは間に合いません。それ故、正確な画面を決定するためユニバーサルファインダーを御使用下さい。これには二種類発売されています。

(I) ライカ型ユニバーサルファインダー（第48図）
これは画角決定用のマスクが移動して視界が変わる型式です。135耗から35耗迄のレンズに使用できます。



第49図

(II) 変倍式ユニバーサルファインダー（第53図）
画角決定用のマスクの大きさは一定ですが倍率が連続的に変化して画界を変える型式のものです。使用範囲は135耗から28耗レンズまでです。

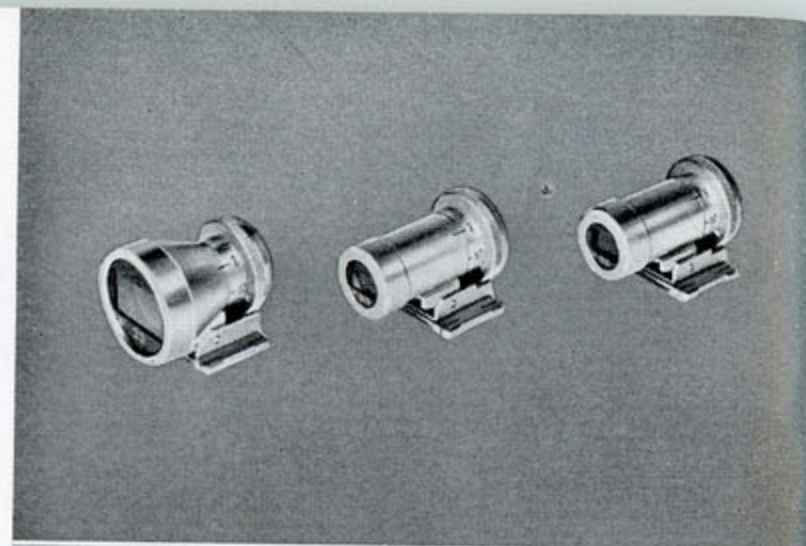
専用ファインダー

各種交換レンズの専用ファインダーで25耗から135耗迄の各レンズ用がそれぞれ製作されて居ります。アクセサリ座金に挿込み、撮影距離をパララックス矯正器の目盛に入れて目標をねらいます。

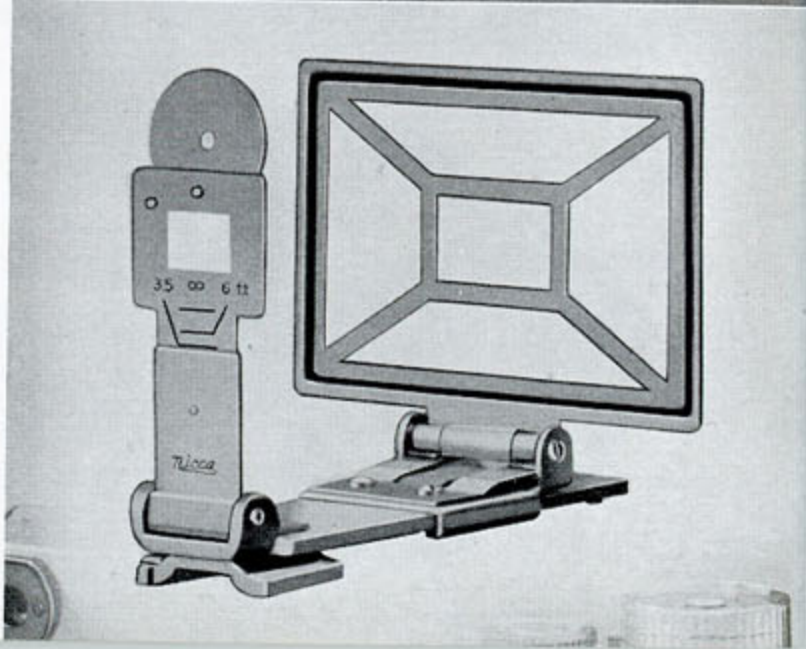
スポーツファインダー

折畳み式の全金属製の枠形ファインダーで目標が画角内に入らない内に見えるため、速く動く目標を照準するのに便利です。パララックス矯正器付で35耗、50耗、85耗、105耗、135耗の五種のレンズに使用出来ます。

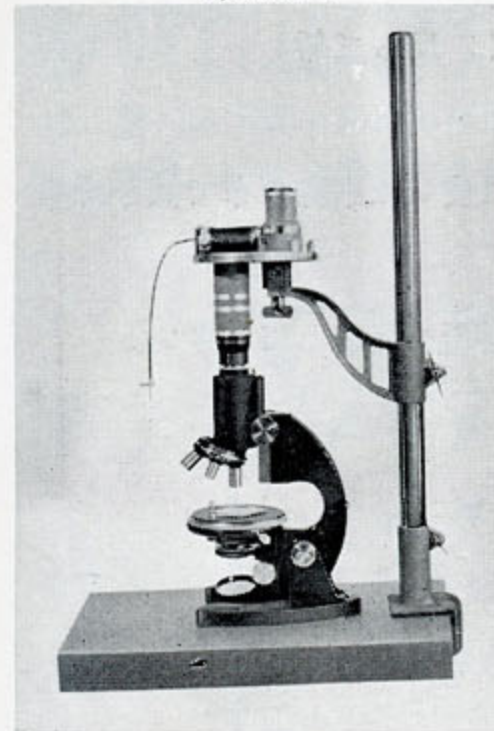
第50図



第51図



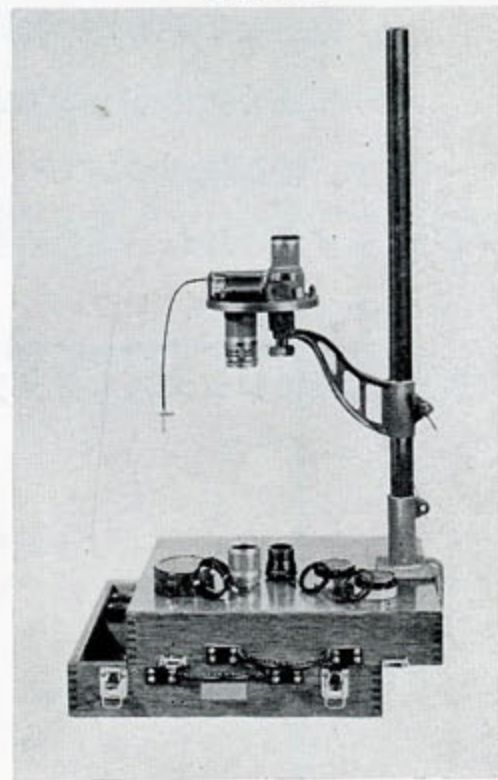
第52図



ニッカ複写器は複写のみならず、顕微鏡写真撮影用にも使用される万能式であります。大型であります但し分解の上、小型携帯箱に収容出来るポータブル式で箱の大きさは17吋×12吋×4吋、重量は6.2kgであります。市場には四本柱式の華奢なものも発売されておりますが、正確な複写には振動しやすいため御奨め致しません。

(別冊の使用書を発行しております)

第53図



- (I) レンズ類の清掃は十分な注意を要します。レンズ刷毛（材料店にあります）で軽く払い、万一、指紋などが付いた時は柔らかいセーム皮又はサラシ木綿、ガーゼ等に少量の純アルコールをつけて軽く拭き取ります。木綿やハンカチは数回洗ったものが良く、反って新しいものは禁物です。特に糊のついているものは決して使用してはなりません。
- (II) カメラの細かい部分の塵埃はやわらかい刷毛で払い落とし、セーム皮又は木綿の布で拭き清めます。
- (III) 湿気はレンズにもカメラ本機にも禁物ですから成可く乾燥した場所へ保管して下さい。

注意

前にも述べた様にシャッターを捲き上げた儘、長期間保存されるのは絶対に禁物です。

皆様の御愛機を常に最良の状態に置かれるため再び下記の事項を御一読下さい。

- ① 正しい使用法を習熟され機能を十分に発揮して下さい。
- ② 精密機械でありますのでショック、湿気等を極力御避け下さい。
- ③ フィルム挿入の場合フィルム屑等が機械内に入らぬ様充分御注意下さい。
- ④ 万一御不審の点がありましたら御遠慮なく御問合せ下さい。
- ⑤ 盗難、紛失の場合のためカメラ番号、レンズ番号、其の他特徴等は必ずメモして置いて下さい。

御愛機メモ

機名	ニッカカメラ 3-F型
ボデー番号	No.
レンズ番号	ニッコール F: (mm) No.
御購入年月日	昭和 年 月 日
ニッコールクラブ	月 日 入会 会員 No.
備考	

ニッカカメラの附属品

附属品はニッカ専用の品を必ず御使用願います。下記のニッカ専用附属品は凡ての点でカメラの性能を100%発揮出来る様に設計製作し十分に検査されて居るものです。

レザーケース、レンズフード類、フィルター類、ニッカ・フラッシュ・ユニット、セルフタイマー、レリーズ、マガジン、シンクロナイザー用コード（標準品及1米の二種）、延長用コード、接写装置、ユニバーサルファインダー類

小売店の皆様へ

ニッカカメラを店頭で陳列される時はなるべく日光の直射を受けない様に願います。直射が止むを得ない場合には必ずレンズキャップを掛けておいて下さい。

ニッカカメラに対する御問合せは何卒下記へお願い申し上げます

製造元 **ニッカカメラ株式会社**

本 社 東京都大田区田園調布1~1263
電話 池上 (75) 2191 (代表)
工 場 東京都大田区田園調布1~1232

国内総代理店

ひのまるや

東京都中央区日本橋室町4~3
電話 日本橋 (24) 0321~0327

NICCA CAMERA CO., LTD.